令和５年　９月　１９日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

① 国語　127人

② 数学　127人

③ 英語　128人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，英語の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

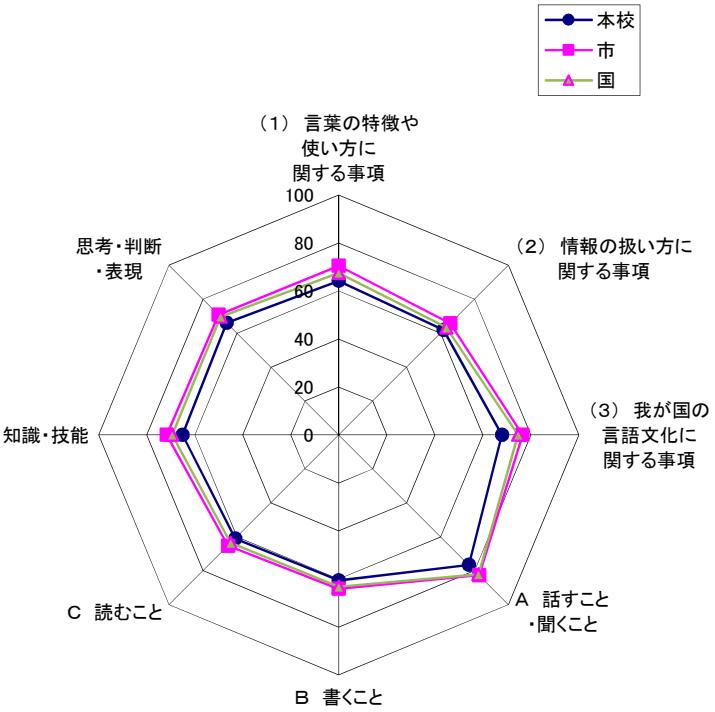
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.2	70.5	67.5
	（2） 情報の扱い方に関する事項	61.8	65.7	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	68.0	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	76.6	82.6	82.2
	B 書くこと	60.6	64.1	63.2
	C 読むこと	61.0	65.3	63.7
観点	知識・技能	65.1	71.7	69.4
	思考・判断・表現	66.1	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

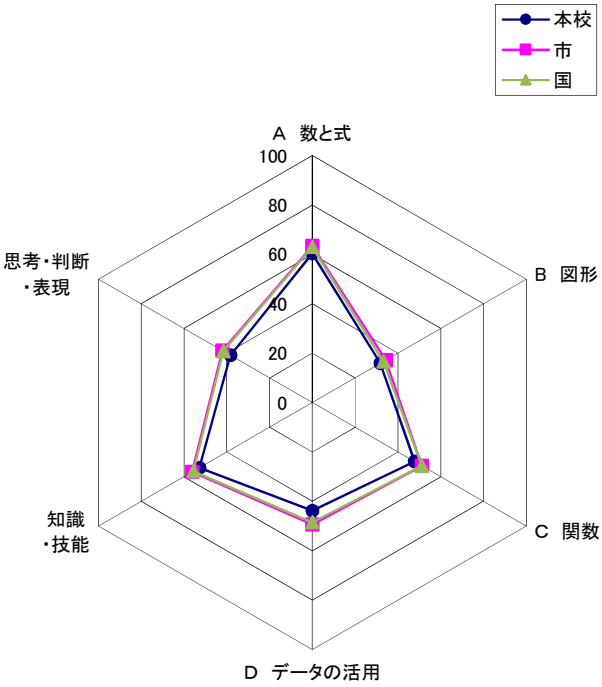
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，64．2%で市の平均より6．3ポイント下回っている。 ○事象や行為，心情を表す語句について問う問題では，平均正答率が93．7%で，県の平均を3．5ポイント上回っている。 ●文脈に即した正しい漢字を書く問題では，平均正答率が34．6%で，県の平均よりも13．8ポイント低い。	・基礎・基本となる漢字の学習について，授業において，問題演習の時間を設定する。その際，同音異義語や同訓異字など，文脈に即して正しい漢字を選択できる力をはぐくむようにする。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，61．8%で市の平均より2．0ポイント下回っている。 ●具体と抽象など情報と情報との関係について問う問題では，平均正答率が60．6%で，県の平均よりも1．3ポイント低い。	・「話題の設定，情報の収集」に関する指導事項が，「話すこと」，「聞くこと」，「話し合うこと」に共通する指導事項であるため，「話すこと」だけではなく，「聞くこと」や「話し合うこと」を中心とした学習においても，何のために，何を話題として取り上げるのかを明確にする。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，68．0%で市の平均より8．1ポイント下回っている。 ●古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える問題では，平均正答率が69．3%で，県の平均よりも5．2ポイント低い。	・古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする際には，古典の原文を教材とし，古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりする際には，分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加えるなど，指導する内容や実態に応じて教材を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，76．6%で市の平均より5．5ポイント下回っている。 ●話の内容を捉え，知りたい情報に合わせて効果的に質問する問題では，平均正答率が69．3%で，県の平均よりも6．8ポイント低い。	・実際にインタビューをするなど，ライブで話したり聞いたりする場面を設定する。また，インタビューをする場面では，話し手の意図を考えながら聞き，必要に応じて相手が言いたいことを確かめたり，足りない情報を聞き出したりするよう促す。
B 書くこと	平均正答率は，60．6%で市の平均より1．8ポイント下回っている。 ○自分の考えが伝わる文章になるように，根拠を明確にして書く問題では，平均正答率が74．8%で，県の平均を3．2ポイント上回っている。 ●叙述の仕方などを確かめて，文章を整える問題では，平均正答率が46．5%で，県の平均よりも6．6ポイント低い。	・実際に興味をもったことについて調べたり考えたりしたことをレポートにまとめて書く場面を設定する。また，読み手の立場に立って，語句の用法や叙述の仕方を確かめたり，具体と抽象など情報と情報との関係に注意したりしながら文章を整えるよう促す。
C 読むこと	平均正答率は，61．0%で市の平均より2．9ポイント下回っている。 ○文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え，要旨を把握する問題では，平均正答率が74．8%で，県の平均を1．4ポイント上回っている。 ●文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりする問題では，平均正答率が59．1%で，県の平均よりも10．2ポイント低い。	・観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりすることで，物事に対する新たな視点をもてるようにする。

宇都宮市立一条中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と式	60.3	63.4	63.0
	B　図形	31.8	34.3	33.2
	C　関数	47.8	51.2	51.2
	D　データの活用	43.8	49.4	48.5
観点	知識・技能	52.8	56.2	55.7
	思考・判断・表現	38.3	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

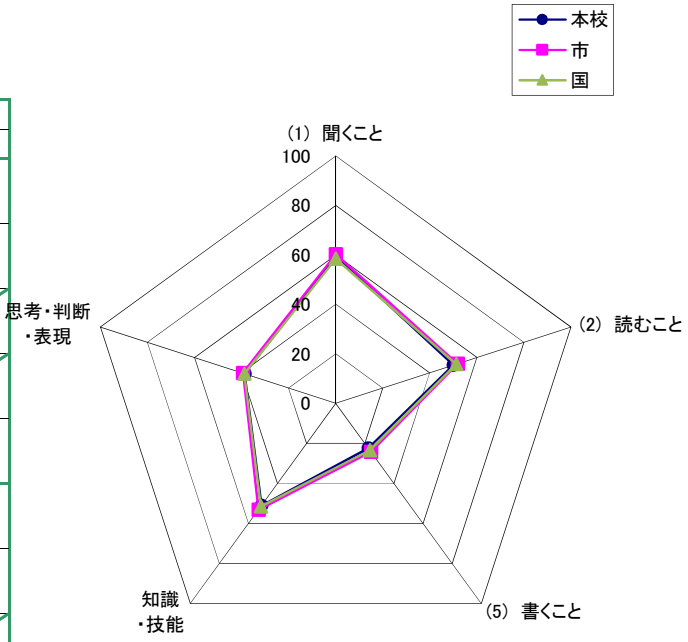
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と式	平均正答率は，60．3%で市の平均よりも3．1ポイント下回っている。 ○自然数の意味を問う問題では41．7%で県の平均を1．2ポイント上回っている。 ○文字式の計算では81．9%と県の平均を1．9ポイント上回っている。 ●倍数になることを説明する問題では，平均正答率が35．4%と低く，県の平均よりも4．8ポイント低い。	・今後も授業の最初に復習を兼ねた問題への取り組みや小テストを継続し，基礎的な計算技能の定着は続ける。ただし，復習ややり直しの習慣がない生徒が多いため，確実な学習習慣にもつなげていく。 ・授業の中で友達に説明する場面を設けるなどし，計算が成り立つ理由なども説明できる力を身に付けさせたい。
B　図形	平均正答率は，31．8%で4領域の中では最も低く，市の平均よりも2．5ポイント下回っているが，県の平均と同等である。 ○三角形の合同を用いた記述式の証明では，平均正答率は33．9%と低いが，県の平均を2．8ポイント上回っている。 ●正しい解答を選ぶ等の問題では正答率は30%程度で，県の平均を若干下回っている。	・数と式と同様に，説明することが苦手に感じている生徒が多い。基本的な証明の問題を繰り返し解くことで考え方，表し方を理解させ，まずは自分の言葉で説明しようとする意欲を育てていきたい。
C　関数	平均正答率は，47．8%で市の平均よりも3．4ポイント下回っている。 ○グラフについての選択問題では，県の平均を4．0ポイント上回っている。 ●反比例について正しいものを選択する問題とグラフや式を用いて記述する問題では，県の平均を4ポイント程度下回っている。	・関数分野では変化の割合，式の求め方は毎年関わってくる内容なので，求め方を覚えさせるだけでなく，その値が示しているものが何なのかも考えさせていきたい。 ・各学年で新しく学習する内容のときに，既習事項も合わせた問題演習などを行い，学習内容を関連付けていきたい。
D　データの活用	平均正答率は，43．8%で市の平均よりも5．6ポイント下回っている。 ○累積度数について考える問題では，県の平均を2．2ポイント上回っている。 ●四分位範囲を求める問題では平均正答率は50%を超えているが，県の平均を10．2ポイント下回っている。	・まずは代表値の求め方や箱ひげ図の作成といった基本の習得に力を入れ，ヒストグラムや箱ひげ図のような図から傾向を読み取る力にも結び付けていきたい。 ・ヒストグラムや箱ひげ図の作成から，情報を読み取る力，特徴を説明する力の両方を身に付けさせるために，簡単な問題から少しずつ説明をする場面を作る。

宇都宮市立一条中学校第３学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度 本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	59.5	60.2	58.4
	(2) 読むこと	50.0	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	22.5	24.2	23.4
観点	知識・技能	51.1	53.1	51.5
	思考・判断・表現	38.7	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	○文における基本的なイントネーションや文における区切りなどの音声の特徴を踏まえて，情報を正確に聞き取ることができるかどうかを把握しているかをみる問題では全国の平均とほぼ同じ結果となった。また，自分の置かれた状況などから判断して，必要な情報を聞き取れているかをみる問題では平均を大きく上回った。 ●社会的な話題について，短い説明の要点を捉えることができるかどうかを把握する問題では正答率がやや全国の平均より低くなっている。	日頃から教科書の本文の内容を表すスキットを見ながら，本文を聞く活動を継続的に行っていきたい。その際に聞き取るポイントを意識させ，話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて必要な情報を聞き取ったり，自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断する力を養いたい。
(2) 読むこと	○社会的な話題について，短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題では全国の平均を1．7ポイント上回っている。 ●「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し，事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる問題では全国の平均を約4ポイント下回っている。	基本的な語彙や基本文の定着を図る学習活動を充実させるとともに，一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく，登場人物の行動や心情の変化，全体のあらすじなど，書き手が述べていることの大まかな内容を捉える活動も積極的に取り入れていきたい。
(3) 書くこと	○メールの英文を依頼する表現に書き換える問題では，平均を1ポイント上回っている。 ●日常的な話題について，事実や自分の考えなどを整理し，まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために，学校紹介文を書く問題では，平均を3ポイント下回った。	今後も自分の考えや身近な内容について，まとまりのある英文を書く活動を取り入れていきたい。さらに，社会的な話題について，自分の考えとその理由を書くような機会を与えていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれている」と回答した生徒の割合は93.8%であり全国平均を4.9ポイント上回っている。

○「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した生徒の割合は70%であり，全国平均を3.6ポイント上回っている。「先生は，あなたのよいところを認めてくれている」の肯定割合も高く，日頃から生徒たちと積極的にコミュニケーションをとり気軽に相談できるなど，お互い信頼し合える関係作りができている傾向にあると考えられる。今後も継続して生徒理解や生徒との良好な関係づくりに努めていきたい。

●1．２年生の時に受けた授業のICT機器の使用について，ほぼ毎日・週3回以上の割合が全国平均を5.7ポイント下回っている。また，「ICT機器を使うのは勉強に役立つ」の肯定割合も1.5ポイント下回っている。情報活用能力の育成のために，日常的・効果的に活用するための環境を整えていく必要がある。また，学習指導において，学ぶ意欲の向上を図るためにも，ICT機器を効果的に活用して授業づくりを行っていきたい。

○●「１日あたりどのくらいの時間勉強するか」の質問に対して2時間以上の割合が県・全国とも13ポイント以上，上回る結果となった。また，「計画を立てて勉強をしているか」の肯定割合も県・全国とも上回る。しかし，調査の結果からをみると学習内容の定着にうまくつながっていない。計画を丁寧に作成させたり，個に応じた効果的な取り組み方をアドバイスしたりして学力の向上を図りたい。

○「新聞を読んでいるか」の質問に対しては全体的に読んでいる割合が低いが，低い割合でも県や全国を上回る。本校ではNIEに取り組んでおり，新聞クラブを立ち上げたり，新聞コンクールに全校生徒で参加したりするなどしている。教室にも新聞が配布されているので，さらに活用させていきたい。

●総合的な学習の時間の発表会や学級活動・道徳での話し合い活動など，課題を立てて情報を整理して発表したり，意見のよさを生かして解決方法を決めたりして積極的に取り組んでいると感じている生徒が多い。しかし，「課題の解決に向けて，自分で考え自分から取り組んでいる」「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」の肯定割合は県や全国とほぼ同じである。今後，学校行事や発表会の機会も増えるので，機会を捉えて考えさせる場を意識的に設けたり，各教科の授業においてもねらいを明確にした話し合いを設定したりして指導していきたい。

宇都宮市立一条中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的，対話的で深い学びを実現するための授業 改善を図る。	思考力・判断力・表現力を育てる場の設定 ・伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と，多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より14.7，県より10.5ポイント高い。 ・「１，２年生のときに受けた授業で自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より10.4，県より8.8ポイント高い。 ・「１，２年生のときに受けた授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より12.7，県より8.1ポイント高い。 ・「総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より24.9，県より16.4ポイント高い。 ・「道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より9.5，全国より2.3ポイント高い。 ・「１，２年生のときに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より9.6，県より4.5ポイント高い。 ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」に対し，「はい」と答えた回答率は全国より5.2ポイント高いが，県より1.5ポイント僅かだが下回った。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
本校生徒は自己肯定感が高く，前向きに学習に取り組んでいる。また，日頃よりお互いに意見を出し合い，多様な意見に触れる活動を多く行い，自らの意見を発表することも得意としていることが質問紙の調査から分かった。しかしながら，自分の考えを要約して文章化したり，文章から内容を読み取り，論理的に意見をまとめたり，問題を解いたりする活動が苦手であることが，学力調査の結果に表れた。 学習への意識は高いが，それらが学習の結果に結びつくよう，進めていく必要がある。	『思考力・判断力・表現力を育てる場の設定』 ・文章の意味を読み取る力の育成 ・考えを明確にして書く力の育成	・各教科で，文章を読み解き，解答する問題に取り組む際，丁寧な解説の前に生徒自らが意味を考える時間を取る。 ・NIE活動を活用し，新聞記事等を読み，自分の考えを文章化するなどの機会を増やす。 ・自らの考えをまとめ，書く機会を増やす。 ・授業の中で，学習した事柄を活用する機会を増やす。